

チームパナプラスで 協力して上を目指す

前号で紹介した野菜苗生産とミニトマトの販売を行っているパナプラス㈱（小竹花絵社長・栃木県栃木市大久保町）の後編をお届けする。オリジナルミニトマト「こくパリッ」、ペピーノの果実生産などを語ってもらった。

栃木市 パナプラス㈱
代表取締役 小竹花絵氏
専務取締役 仲田雅洋氏

ペピーノの 果実生産

もうひとつ事業化を目指しているのがペピーノの果実生産だ。ペピーノは1980年代に一度世に出ているが、その苗を作っていたのが栃木県鹿沼市で、ペピーノをどこからか手に入れてきて、子供の頃に父がペピーノの果実を生かすことに挑戦した。ペピーノの果実を生かすことに挑戦した。ペピーノの果実を生かすことに挑戦した。

会社経営について

パナプラスの経営理念は「お客様に喜ばれる商品を作ること。約30名の社員が働きやすい環境作りにもその理念が浸透している」と小竹社長は話している。ペピーノの果実を生かすことに挑戦した。ペピーノの果実を生かすことに挑戦した。

ミニトマト こくパリッ

小竹花絵社長が忘れており、緩衝能的にられない味のトマト作りを目指して2019年から販売を開始した。2020年野菜ソムリエ賞を受賞した。こくパリッの果実を生かすことに挑戦した。



パナプラス 小竹花絵社長

栽培のポイントについて仲田雅洋専務に尋ねると、「養液土耕によるポット隔離栽培をAS認定資材をどのように入れているか、その成分が多いか、それと抗酸化力、いわゆる硝酸態窒素がどうか、トマトからはほぼ検出されないこと、シエフからもパナプラスのトマトは冷蔵庫に入れておけばすぐ美味しく、しかも味がまろやかになってシャキッとしていると言っています」



「こくパリッ」は栃木や茨城など、一部の道の駅でも販売している（筑西市・道の駅グランテラス）

（4面続く）



愛情こめて作られた苗は全国のホームセンターに発送される



ブロックごとに様々な品種の苗を生産している

経営理念

私たちパナプラスは、農業を通して
笑顔集まる
幸せ広がる
喜び溢れる
商品とサービスを創造します。



パナプラスは創業10周年を迎えた。「農業が大変さを知らず」にできることを一生懸命やり、次の10年を目指して頑張っていきたい」と、野菜苗の生産だけでなく、念願のミニトマトの販売を始めたことと忙しい毎日を送っているというが、農業愛にあふれる小竹社長と仲間事務の活躍にエールを送りたい。

次の10年に向け前進

パナプラスは創業10周年を迎えた。「農業が大変さを知らず」にできることを一生懸命やり、次の10年を目指して頑張っていきたい」と、野菜苗の生産だけでなく、念願のミニトマトの販売を始めたことと忙しい毎日を送っているというが、農業愛にあふれる小竹社長と仲間事務の活躍にエールを送りたい。

GPECまもなく開催

7月14日～16日 愛知県国際展示場

日本施設園芸協会主催の施設園芸・植物工場の展示場。安定生産や収量増加、品質向上、省力化と多面的に導入効果があり、スマート農業の普及促進が課題とされる日本農業に欠かせない製品・技術が揃う。

備えも急務であり、非常から幅広い提案がされ、植物工場の普及促進と課題解決に貢献する。

「未来につなげるNPON農業」をテーマにした企業・団体が出展し、新製品や新技術を展示・発表する。安心して来場できるような新型コロナウイルス感染症対策を万全に行われ、多くの参加を呼びかけている。入場するには事前登録が必要でGPECホームページにて行う。(www.gpec.jp)。

③大学・研究機関が研究成果を発表
○人工光型植物工場において、藻の発生を抑える水耕栽培パネルや、各社独自の技術型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

①ハウス栽培で安定生産・収量増加・省力化につながる提案が多数
○高い採光性で収量増加に貢献するハウス、独自の細霧冷房により真夏の栽培を可能にしたハウスのほか、ハウス強靱化に関わる部材など各社特色のある展示を行う。さらに遮光・遮熱シートなどの暑さ対策資材、生分解性原料を使用したフィルムや培地など、環境に配慮した資材も多数展示される。

②植物工場の各種資材からコンサルティングまで多種多様な提案
○人工光型植物工場において、藻の発生を抑える水耕栽培パネルや、各社独自の技術型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

②植物工場の各種資材からコンサルティングまで多種多様な提案
○人工光型植物工場において、藻の発生を抑える水耕栽培パネルや、各社独自の技術型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

③大学・研究機関が研究成果を発表
○人工光型植物工場において、藻の発生を抑える水耕栽培パネルや、各社独自の技術型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

IoT技術を活用



中部国際空港セントレアに直結した愛知国際展示場

①ハウス栽培で安定生産・収量増加・省力化につながる提案が多数
○高い採光性で収量増加に貢献するハウス、独自の細霧冷房により真夏の栽培を可能にしたハウスのほか、ハウス強靱化に関わる部材など各社特色のある展示を行う。さらに遮光・遮熱シートなどの暑さ対策資材、生分解性原料を使用したフィルムや培地など、環境に配慮した資材も多数展示される。

②植物工場の各種資材からコンサルティングまで多種多様な提案
○人工光型植物工場において、藻の発生を抑える水耕栽培パネルや、各社独自の技術型植物工場で活用できる技術、SDGs社会の実現に向けた取り組みなどの研究成果が発表される。

&減農薬栽培を提案、(株)サカタのタネ(サカタの新しいタネやソリューションを提案)

感染対策について

会場入り口では検温を実施する。該当症状(37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛など)がある場合の入場を断る。来場者証・出展者証にはQRコードを貼付しており、入退場時に読み込むことで来場者の管理をする。会場入り口や各所に消毒液を設置するほか、共用部分の消毒を徹底する。このほか救護室の設置、ソーシャルディスタンスの確保等、感染防止ガイドラインに沿った対策を講じて万全を期す。